

2017年度モンゴル活動報告

期 間：2017年8月16日～20日

場 所：ウランバートル

参加者：小久保 謙一（国際委員会）、山本 裕子（国際委員会）、北川 友貴（国際委員会）、浦辺 俊一郎（国際委員会）、木村 絵美（国際委員会）、瀧澤 亜由美（国際委員会）、徳田 勝哉（国際委員会）、松原 弘和（国際委員会）

国際委員会では2016年に初めてモンゴル国を訪問し、医療施設7施設の視察とヒアリング調査を実施した。その結果、モンゴル国での技術協力の可能性があると判断し、2017年から正式に技術支援活動を行うことになった。

2017年の活動期間は8月16日から20日の5日間でした。活動内容としてはETRF設置と水質検査、およびJSTBとモンゴル共同開催で第1回ジョイントセミナーを行った。技術支援の対象はモンゴル最大の透析施設を持つ国立第一病院と透析ベッド数が比較的多く、第一病院に距離が近い国立第三病院に限定して行った。セミナーは最終日に開催され、日本からは6名の演者が英語またはモンゴル語で透析技術に関連した総論から各論まで幅広い内容について講演を行った。

ETRF設置は第一病院12台、第三病院3台の装置で実施した。当初は日本人スタッフのみで作業する予定だったが、第一病院透析センター長のChuluuntsetseg医師

呼びかけで全土から医師、エンジニア、テクニシャンおよび看護師が50名以上集合し、急遽数グループに分かれてハンズオン形式で作業を実施した。通訳を介してでしたが参加者からは多くの質問があり、非常に熱心に作業に取り組んでいた。不具合のある装置もあり作業は連日深夜まで及んだが、ETRF設置後の水質は大幅に改善した。セミナーも100名近くの参加者が集まり、予定時間を超過しても質問が途切れないほど大盛況のうちに終了した。

今回の訪問では多く参加者から技術支援を熱望する声が聞かれ、また複数の施設で修理が必要な装置も散見されたことから、継続的な技術支援が必要であると思われる。

2018年夏にも第2回ジョイントセミナーと保守点検を中心とした技術支援を実施することが決定している。

